



【発信日】 令和6年5月17日

【問い合わせ先】

結とぴあ（1階 1番窓口）

健幸福祉部福祉課 担当：中屋、石田

電話 0779-64-5142

～障がいのある人もない人も幸せに暮らせる共生社会を目指して～
（「風は生きよという」映画上映会）

福祉ふれあいまつりの開催にあわせて、才能や個性を認め合い、支えあい、補いあって共に生きるインクルーシブ社会を知るための映画上映会を開催します。

つきましては、このことについて周知にご協力いただきますようお願いいたします。

記

- 日時 6月1日（土）
第1回上映会 9：00～10：20
第2回上映会 10：40～12：00
第3回上映会 13：10～14：30
※申込みは不要
- 場所 大野市役所 市民ホール（1階北側）
- 参加料 無料
- 定員 各回40名

映画上映会 「風は生きよという」

～障がいのある人もない人も
幸せに暮らせる共生社会を目指して～

■日時 令和6年6月1日(土) (全3回上映) ※字幕あり

・第1回上映会 9:00～10:20

・第2回上映会 10:40～12:00

・第3回上映会 13:10～14:30

■場所 大野市役所 市民ホール(1階北側)

※申込は不要です
※各回定員40名
※参加無料

文部科学省特別選定
少年、青年、成人、家庭向き

存在を否定され、死ぬ自由を突き付けられ、
それでもなお地域社会に分け入っていく勇敢な呼吸器ユーザーたち。
今までこんな風に彼らを見たことはなかった。
存在理由を獲得していく彼らの姿が逞しく眩しく映っていた。
世界を救うヒーロー・ヒロインに見えてきた。
川口有美子【作家・日本ALS協会理事】

人工呼吸器は、呼吸を助ける道具です。
そこから吹いてくる風が、人と人とをめぐり合わせてくれます。

風は生きよという

追い風は、ときどき前からふいてくる。

もしもあなたが、病気や障害のために身体を動かせなくなったとしたら、どんな人生を想像しますか？

映画が映し出したのは、ふつうの街でふつうの生活を送る人びと。特別なことといえば、呼吸するための道具・人工呼吸器を使用していることくらい。淡々とその生活を映し出し、歩んできた人生を見つめた時、浮かんできたのは日常の尊さ。たくさんの支援が必要だからこそ、多くの人に出会え、自由に動くことができないからこそ、生きてあることに感動する。じんわりとところを播する、人と人とが織りなす物語。

もしもあなたに、思うように身体を動かせない、そんな日が来た時は思い出してほしいのです。映画の中を駆け抜けていた、風の音を。その風に包まれた人と人とが、支えあいながら生きていたことを。

「出来ないことがたくさんある中で、
障害者が出来る大きい仕事ってというのは、
外に出て人目について、
人の意識の中に障害者の存在を
ちよっとでも根付かせていくこと」



動けなくなることで、
見えてきたもの



大野市は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



3 すべての人に
健康と福祉を



10 人や国の不平等
をなくそう



風は生きよという

宍戸大裕 監督作品

呼吸器から吹く風に乗る、つながりあう人と人との物語

監督・撮影・編集・ナレーション：宍戸大裕 音楽：末森樹 整音：米山靖 アニメーション：植田秀蔵 撮影協力：神吉良輔 高橋博二

宣伝写真：齋藤陽道 宣伝デザイン：玉利公節 助成：公益財団法人 キリン福祉財団 企画・製作：全国自立生活センター協議会

配給：「風は生きよという」上映実行委員会 2015年/日本/81分/ドキュメンタリー

www.kazewaikiyotou.jp

